

# 医療ルネサンス

No.5803



# 性同一性障害

6 / 6

## Q&A



GID(性同一性障害)学会理事長

中塚幹也なかつかみきやさん

1986年岡山大学医学部卒業。2007年より同大学院保健学研究科教授。産婦人科医。専門は生殖医学。

性同一性障害の治療や当近づけます」

患者を巡る課題について、担当するのはどの診療科ですか。

GID\*(性同一性障害)「心の性は、幼少時から

学会理事長の中塚幹也さん

に聞きました。

性同一性障害はどの

ような病気ですか。

「心の性

が体の性と

異なる状態

で、自分の

体が自分の物でないような

違和感に苦しみます。数千

人に一人の頻度ともされて

います」

——どんな治療が必要で

すか。

「心の性を無理に変えよ

うとすると、うつや自殺に

つながるおそれがありま

す。性ホルモンを投与した

り、子宮や卵巣、精巣の摘

出などの性別適合手術を行

ったりして、体を心の性に

大きく影響しています。高額

な費用が払えず治療を断念

したり、待ち時間が短い海

外での手術を選んだりする

患者も相当数おり、保険の

適用が急がれます」

——ほかに課題はありま

すか。

「戸籍上の性別変更を認

めた性同一性障害特例法が

施行され、間もなく10年で

一度改正されましたが、

今も、未成年の子がいる場

合は性別変更が認められな

いなど、欧米の法律と比べ

ても厳しい内容です」

「子どもへの対応も求め

られています。特に思春期

には二次性徴が起り、恋

愛や制服の問題も大きく、

性別違和感が強まり、不登

校や自傷行為のほか、自殺

願望を抱きやすくなりま

す。でも、多くは違和感を

「昨年作成した冊子」学

校の中の性別違和感を持つ

ことも』では、トイレや制

服、水泳など性別を意識す

る授業での対応や、学校に

性同一性障害に関する本を

置くなど相談しやすくなる

配慮を盛り込みました」

「性別変更まで至ったと

しても、それだけで生きづ

らさは解消できません。性

同一性障害だと告白して仕

事を解雇されたり、希望す

る性として扱われなかった

りして苦し

む当事者が

います。自

分らしく生

きるという、誰もが普通に

望むことを実現するには、

周囲も正しい知識や多様な

性のあり方を理解して認め

ることが大切です」

(中島久美子)

# 周囲の知識と理解も必要

「国内で治療できる病院は限られています。ホルモン治療や性別適合手術を保障が適用されない点が、大が必要でしょうか。

\*GID=Gender Identity Disorder